ニ處シ仍ホ現能ノ印紙ヲ渡散ス

第十二條　前條ノ規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重觀罪俱發ノ例ヲ用ヒス

賞勳叙任

○明治十七年二月五日　廟田太吉

波斯國皇帝陛下ヨリ贈與シタル獅子太陽記章ヲ受領セシ事ヲ奏聞シ之ヲ領用スルヲ許ス

○明治十七年二月廿一日

敎正六位　從六位勳六等　加藤祖一

同　從六位　山根秀介

同　從六位勳六等　武久昌孚

同　從六位　中村元嘉

同　從六位　伴正臣

敎從六位　同　園田弘

同　同　谷津春三

同　同　中澤重業

同　同　大久保親正

同　同　松岡康孝

○明治十七年二月廿二日　農商務權大書記官　日下義雄

兼任內務權大書記官正六位　日下義雄

兼任參事院員外議官補　故從三位廣原朝臣　資朝

贈從二位　故從四位下藤原朝臣　俊基

贈從三位

時事新報

民事訴訟用印紙規則

我政府ハ一昨廿三日第五號ヲ以テ民事訴訟用印紙規則ヲ制定シ本年四月一日ヨリコレヲ施行ス依テ明治八年十二月第百九十六號布告訴訟用罫紙規則ハ同日限リコレヲ廢止ストノ事ヲ布告シタリ其全文ノ如キハ本日ノ本紙公報欄內ニ就テ熟閱セラルベシ今此印紙規則敎行ノ趣意ハ政府ノ費用多端ノ折柄其歳入ヲ增加セント欲シテ適當ノ稅源ヲ見ヽ偶マ民事訴訟ノ繁多ナルヲ利シテコレニ課稅シ以テ歳入ノ一部分ヲ補ハントスルニ在ルカ將タ近來民間ニ健訟ノ風流行シ敎ノ名譽回復、營業毀損回復ナド種々ノ名目ヲ附シテ其實ヲ大ニシ根モナキ事ヲ根ノアル如ク官做シテ徒ラニ社會ノ妨害ヲ爲スノ徒アルノミナラズ故ラニ契約ヲ疎漏ニシテ訴訟ノ種ヲ蒔キ愚夫婦ヲ煽動シテ無理ノ訴ヲ起サシメ以テ己レノ口ヲ糊スルノ資ニ供スルノ徒少ナカラザルガタメニ各地ノ裁判所ハ概ネ無用ノ煩勞ニ堪エザルノ弊ナシト云フベカラズ故ニ印紙ノ法ヲ以テ訴訟ノ課稅ヲ重クスルトハ自カラ健訟ノ惡弊ヲ矯正スルノ効アルベシト云フニ在ルカ嚆如何セン此布告文中其趣意ヲ明言スル所ナキヲ以テ我輩ハ遂モコレヲ知ルノ方便ナキナリ蓋シ訴訟本來ノ性質タルヤ他人ノ所業ノ不埒ナルガタメニ我權理ノ既ニ枉レルモノヲ再ビ直クシテ其正ニ復センメントスル者ニシテ裁判ノ目的ハ人民ノ權理ヲシテ枉屈スル所ナカラシメントスルヨリ外ナラズ極端ノ事例ヲ枚擧スレバ際限モナキニナレ𪜈訴訟全体ノ基ツク所ハ斯ノ如シト云ハザルヲ得ズ故ニ我輩ハ今爰ニ訴訟稅ノ性質如何ヲ研究スルヿヲ好マズ嚆今回ノ印紙規則ハ從前ノ罫紙規則ニ比較シテ民事訴訟ノ入費上ニ何樣ノ相違アルカヲ知ラント欲スルノミ

明治八年十二月第百九十六號布告訴訟用罫紙規則ノ第九條ニ於テ原被告人ヨリ裁判所ニ差出スベキ訴訟用罫紙ヲ類別シテ第一金壹錢ノ類ニ關スル訴訟ノ金十圓又ハ米五石又ハ雜穀十石未滿ノモノニハ一枚一錢ノ罫紙ヲ用ヒ金十圓以上百圓未滿(米幷ニ雜穀ノ量ハ略ス)ノモノニハ一枚二錢ノ罫紙ヲ用ヒ金百圓以上五百圓未滿ノモノニハ一枚三錢ノ罫紙ヲ用ヒ金五百圓以上千圓未滿ノモノニハ一枚四錢ノ罫紙ヲ用ヒ金千圓以上ノモノニハ一枚五錢ノ罫紙ヲ用フルヿ第二家督相續等ヲ屬人等ニ關スル人事ノ訴訟ニハ一枚一錢六厘ノ罫紙ヲ用フルヿ第三地所境界田畑等土地幷ニ建家ニ關スル訴訟ニハ一枚一錢二厘ノ罫紙ヲ用フルヿ第四金穀人事幷ニ土地建家ニ關セザル雜事ノ訴訟ニハ一枚五厘ノ罫紙ヲ用フルヿ第五訴訟ニ關スル文通ニハ一枚一厘ノ罫紙ヲ用フルヿヲ示シ又同規則第十條ニ於テ載許狀罫紙ノ種類ヲ示シ一枚二錢ヨリ同六錢マデ夫々ニ類別シタリ然ルニ今此罫紙規則ヲ取リテ今回ノ印紙規則ニ比較シ精細ニ其輕重如何ヲ判別セントスルハ固ヨリ我輩ノ能スル所ニアラズト雖ドモ試ニ統計院編纂ノ統計年鑑ヲ繙キテ最近ノ民事訴訟統計ヲ見ルニ明治十三年大審院ノ民事件數中其新訴ニ係ハルモノ四百九十七件同年上等裁判所ノ民事件數中其新訴ニ係ハルモノ五千四百七十一件同年地方裁判所幷ニ支廳ノ民事件數中其新訴ニ係ハルモノ八万二千〇五十二件同年區裁判所ノ民事件數中其新訴ニ係ハルモノ四万九十七百六十一件以上合計十三万七千七百八十一件ナリ而シテ明治十三年度我政府歳出入現計領表中訴訟用罫紙ノ稅額ヲ見ルニ九万三十四百四十一圓トアリ愛ニ於テ前ノ明治十三年ノ民事訴訟總件數ヲ以テ同年度ノ訴訟用罫紙稅ノ收入額ヲ扣除スルニ一件ニ付罫紙代金六十七錢餘トナルナリ是ニ由テ視ルトキハ現行ノ罫紙規則ニテ訴訟人ノ負擔スル罫紙稅ハ一件ニ付金六十七錢位ノ平均ナリト知ラル、ナリ倍今回ノ印紙規則ニ依ルトキハ民事訴訟一件ニ付印紙稅何程ノ平均トナルヤト云フニコレヲ今日ニ豫知スルヿ甚タ難キハ勿論ナリト雖ドモ先ツ粗解ニ於テ二十錢ノ印紙ヲ勸解表ニ貼用シ裁判所ノ訴狀ニハ人事等金額ニ見積ルベカラザルモノニ限リ三圓ノ印紙其他ハ金額五圓マデノモノ二十錢夫レヨリ次第ニ割增シテ百圓マデ三圓、千圓マデ十五圓、五千圓マデ二十五圓、一万圓マデ三十五圓、十万圓マデ二百十五圓ノ印紙ヲ貼用スル等次第ニ昇リテ際限アルヿナシ訴訟中裁判所ニ差出ス書類ノ中或ハ二十錢ノ印紙ヲ貼用スルアリ或ハ五十錢ノ印紙ヲ貼用スルアリ裁判所ヨリ雇々書類ノ謄本ヲ申受ルニハ每一枚ニ三錢乃至五錢ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用スル等ノ法ヲ稱覽シテ見積リヲ立ツルトキハ民事訴訟ノ印紙稅ハ一件ニ付平均六七圓位ニ相當スルナランカト臆測スルナリ即チ現行ノ罫紙稅ニリ大概十倍內外ノ增加ナラント思ハル、ナリ果シテ此計算ニ大差ナクンバ今回第五號布告ヲ以テ民事訴訟用印紙規則ヲ制定シタルガタメ敎庶ノ農人ヲ增加スルハ決シテ少小ナラザルベシト信スルナリ明治十六年度歳出入豫算表中訴訟罫紙稅ハ十二万千六百四十二圓トアリ來ル四月一日今回ノ新印紙規則實施以後ニ於テ此稅額ヲ十倍內外ニ增加スベキモノトスレバ我政府ハ新タニ百万乃至百五十万ノ稅源ヲ發見シタルモノト云フベキナリ知ラス我輩ノ計算果シテ其當ヲ得タルヤ否ヤ

雜報

○贈位　後醍醐天皇中興の業を輔け首として勤王の義旗を揚たる楠河州其他新出、名和、兒島、菊地、北畠、義公の忠魂を慰めんと維新以來位階を贈られ別格官幣社に列せられしことと世人の了知する所なるが當時の文臣にして夙に陪臣の專橫を憤り北條高時と滅さんと率先あしたるも終に佐渡の孤島に流されて彼が毒手に斃れ恨を呑んで地下に赴さたる日野中納言從三位藤原實躬卿へ從二位、又同時鎌倉へ下向して非命に斃れたる右少辨從四位下藤原俊基朝臣へ從三位と贈らせ給ふ旨去る二十二日宣下ありたり

○岡參議兼任被免　過日福岡參事院議長井上外務卿歸京したるあよび山縣參議の參事院議長兼任及び伊藤參議の外務卿兼任は孰れも去二十二日免せられたり

○故萬里小路博房君　皇太后宮大夫正三位万里小路博房君い去る十九日より病ム罹り種々治療を加ふるも日を追て危篤に赴く旨　敕聞あ達したれい　聖上にい深く宸襟を惱ませ給ひ去る廿一日は同邸へ勅使を差立られ特旨を以て正二位に叙せられしが終ふ養生叶はず翌廿二日午後八時廿五分逝去したるに付宮內省より金千圓皇太后宮御手許より同千圓又皇子明宮より同二百圓祭粢料として下賜りたり尊卑と明後廿七日午後一時出棺谷中墓地へ埋葬とる筈なり同君い本年六十二歳なりといふ右ハ付特從進房君ハ例規の通り忌引せり

○陸軍卿の一行　大山陸軍卿の一行は去る廿二日香港へ發著したる旨其筋へ電報あ𡚁たりと

○慰親會　我國駐在の清國欽差大臣は明廿六日午後より永田町なる公使館へ大臣參議を始め各國公使其他內外の貴顯數十名と招請して親睦の宴會を開く筈なりと

○宴會　海軍兵學校長伊東中將い一昨日高輪の自邸へ兵學校教師其他數名を招待し轉任の祝宴を開き又神祖は海軍權官吏五十餘名と招待し同く祝宴を開きたりと

○家督　東京府華族從五位大久保敎義氏の隱居を調査屆ありら嫡男從五位大久保敎義氏の家督を仰付られたり

○官廳彙報　農商務權大書記官日下義雄氏は統計委員兼務稅付られ、內務權大書記官岡田好謙、大藏少書記官吉村正義、宮內權少書記官田邊新七郎の三氏は孰れも太政官御用掛兼勤仰付られ、工部權少書記官阿部潛氏い品川硝子製造所殖務取扱兼勤仰付られ、內務權大書記官溝口泰吉氏い番保局長代理兼免され、內務少書記官兼參事院員外議官鶴水井久一郎氏は兼官を免せられたり、農に創設諸官島取締所設